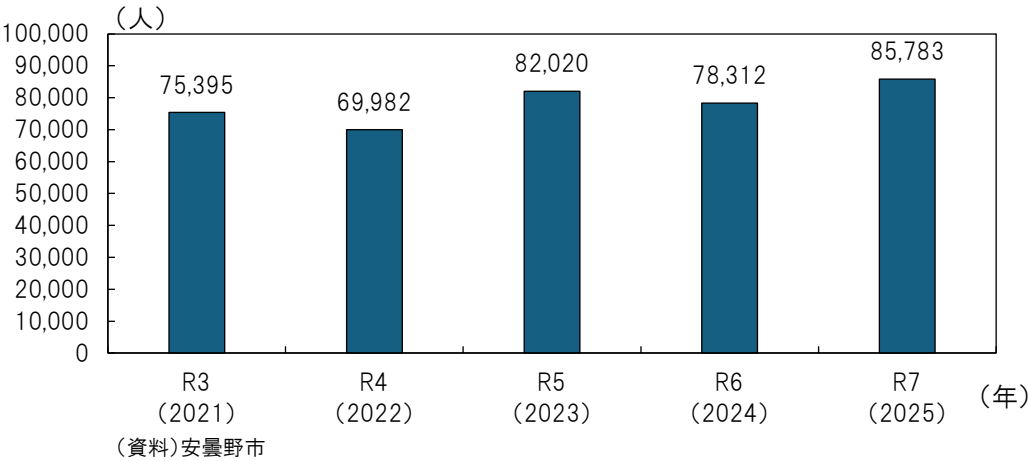


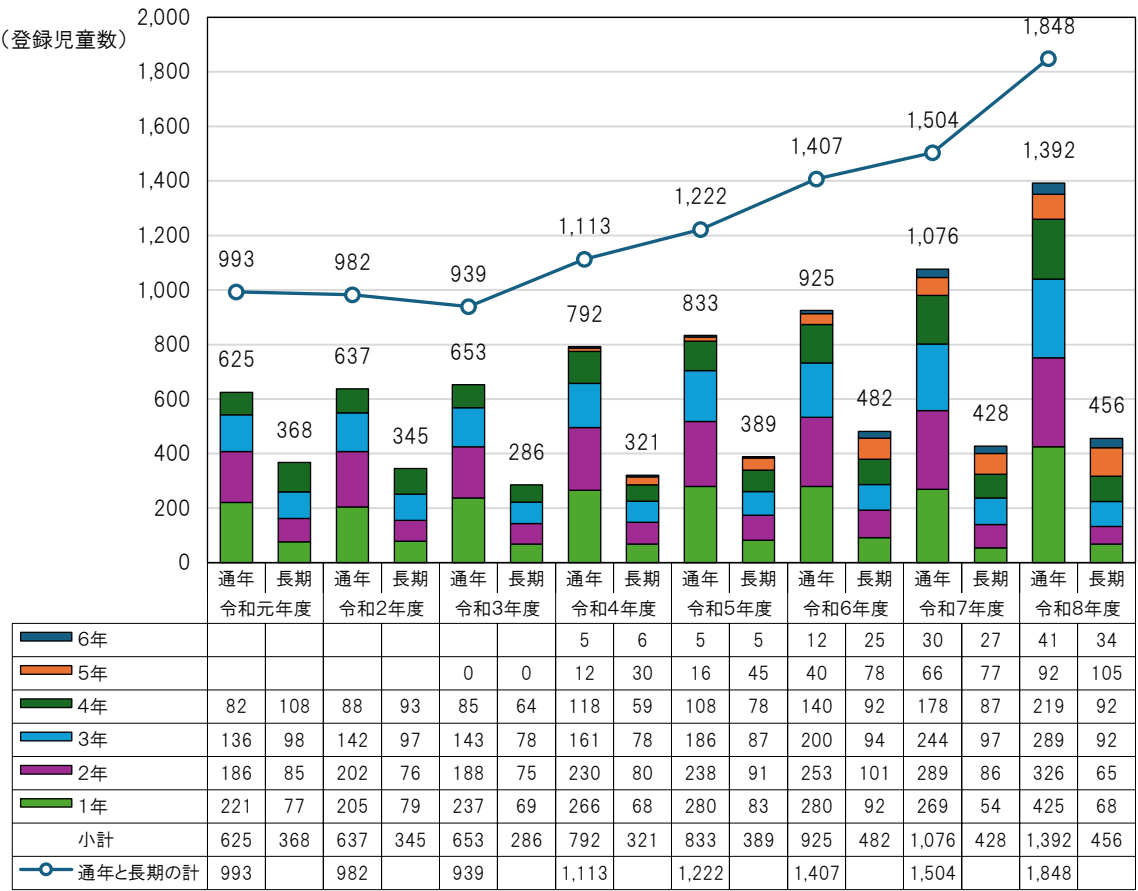
2. 各政策分野の状況 基本目標1 いきいきと健康に暮らせるまち

- ・ 「子育て共働き世帯」が増加する中、児童館の利用者数をみると、増減を経ながらも概ね増加傾向にある（図表 62）。
- ・ 児童クラブの利用者数も同様に増加傾向にあり、令和 8 年度は「通年」「長期」を合わせて 1,800 人を超える水準にまで増加している（図表 63）。
- ・ なお、令和 8 年 7 月末現在、児童クラブの利用を希望するが利用できていない児童は 168 人いる。

図表 62 児童館の利用者数（市内 9 館の計）



図表 63 児童クラブの利用者数

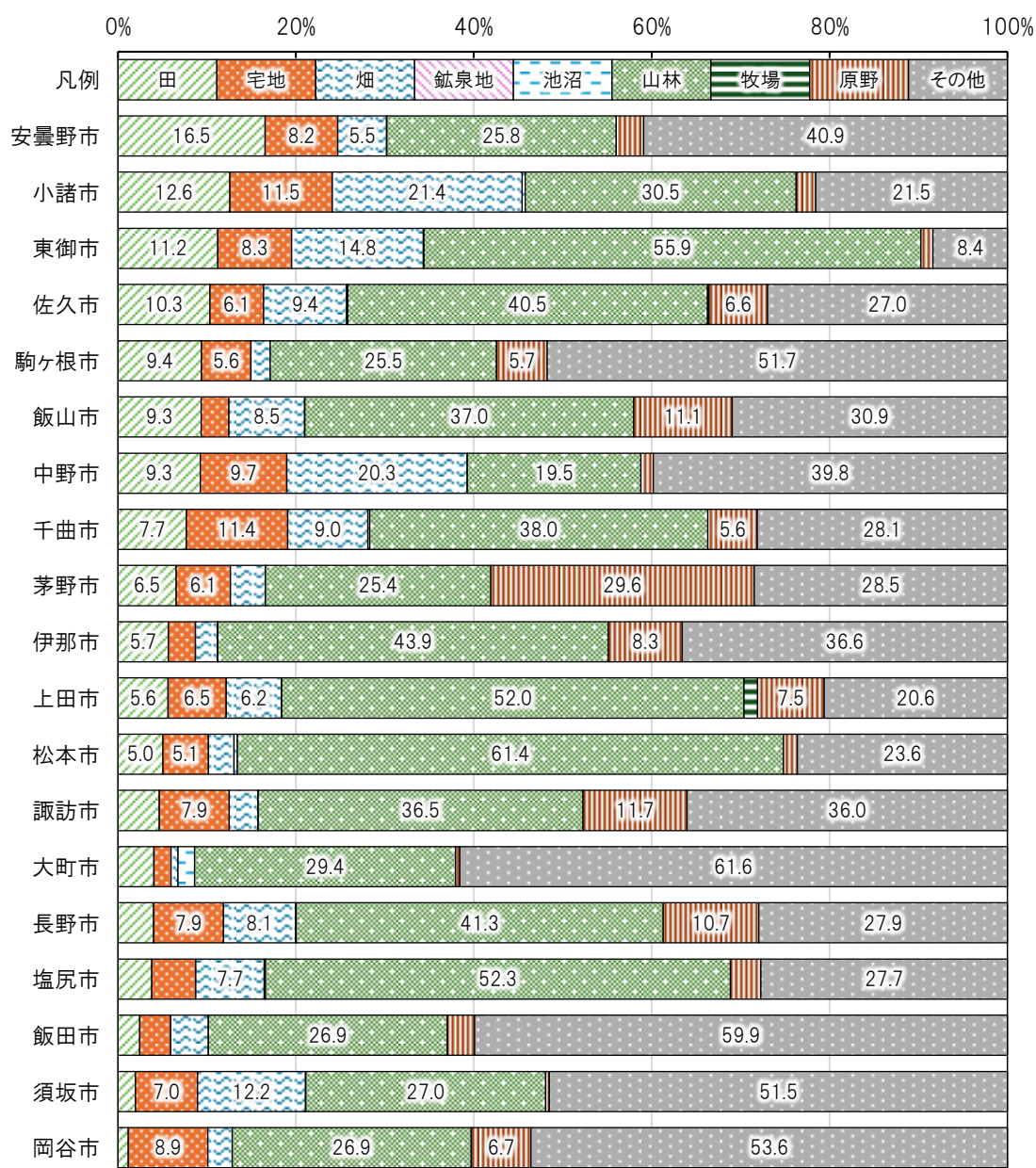


基本目標3 自然環境を大切にするまち

■ 土地利用の状況

- ・ 地目別の構成比について、「田」の割合を県内19市で比較してみると、安曇野市が19市の中で最も高い。加えて「田」と「宅地」の合計でも、安曇野市が19市中最も高くなっている。
- ・ 安曇野市は、豊かな田園景観を維持しながら生活基盤の整備が進められてきた田園都市であり、その特徴が土地利用の構成にも表れている。

図表 115 地目別地構成比の比較（令和7年・19市比較）



(資料)長野県企画振興部情報政策課統計室「ながの県勢要覧」

(注1)「田」の構成比の多い順に表示している

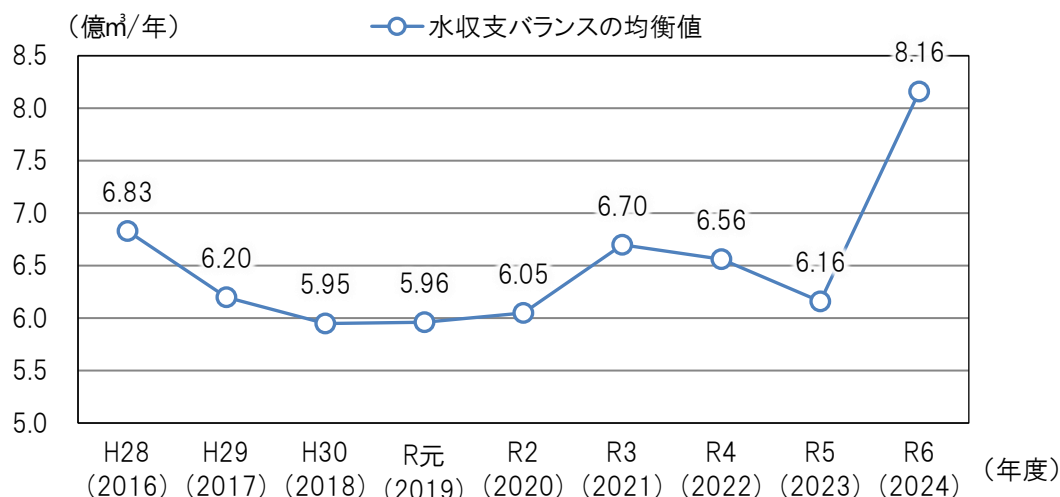
(注2)構成比は、内訳の合計を母数として算出した

(注3)「その他」は保安林、道路、雑種地等が含まれる

■ 水収支の状況

- 降水や河川、水田などから地下へ浸透する水量と、地下水のくみ上げや湧出などにより地下から出ていく水量との均衡を示す「水収支バランス」をみると、年によって変動はあるものの、概ね6億～7億 m^3 /年で推移している。令和6年度は前年に対して大きく増加し、これは降水量の増加によるところが大きいものと考えられる。

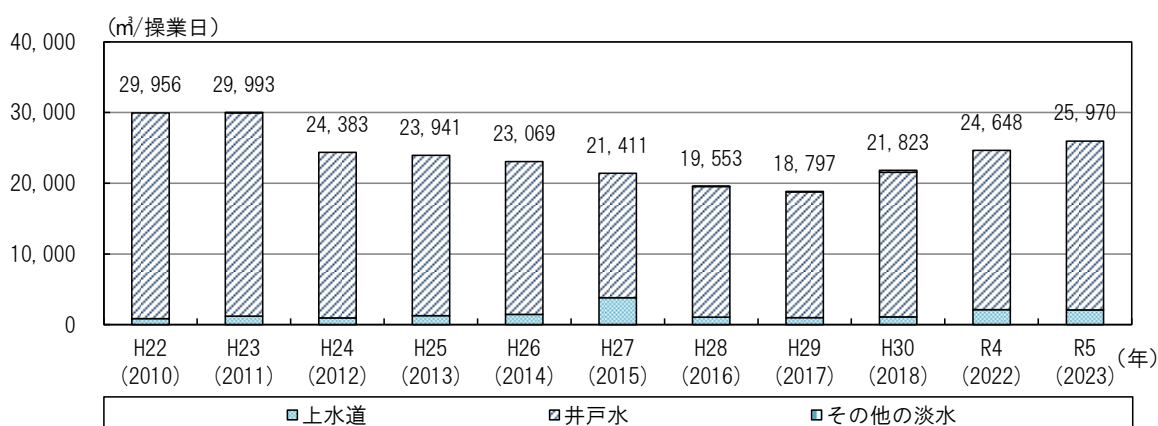
図表 116 水収支バランスの均衡値の推移



■ 用水量（製造業）

- 製造業による1日当たりの用水量は、平成24(2012)年以降平成29(2017)年にかけて減少傾向にあったが、平成30(2018)年は前年比16.1%の増加に転じ、その後も増加傾向にある。

図表 117 製造業1日当たりの用水量



(資料) 長野県「工業統計」、「経済センサス-活動調査」、「経済構造実態調査（製造業事業所調査）」

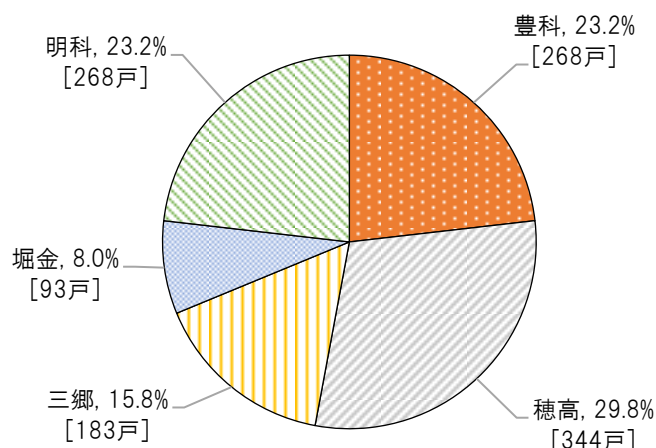
(注) 従業者30人以上の事業所

平成28年以前は「回収水」を水源とする用水量を含む用水量が公表されているが、平成29年以降は調査項目の変更に伴い「回収水」を水源とする用水量を含まない用水量が調査対象となっている。

時系列比較のため、平成28年以前についても「回収水」を水源とする用水量を含まない用水量を集計した。

- 令和7年度の地区別の空き家数をみると、穂高地区が344戸と最も多く、全体の約3割を占める。次いで、豊科地区、明科地区（いずれも29.8%、268戸）が続く（図表143）。
- 平成30年を100として指数を用いて令和7年度の状況をみると、最も増加したのは三郷地区で32.6ポイント増加した。次いで、堀金地区は29.2ポイント増加した。一方、豊科地区は、16.5ポイント減少するなど、地区ごとに増減の状況は大きく異なる（図表144）。

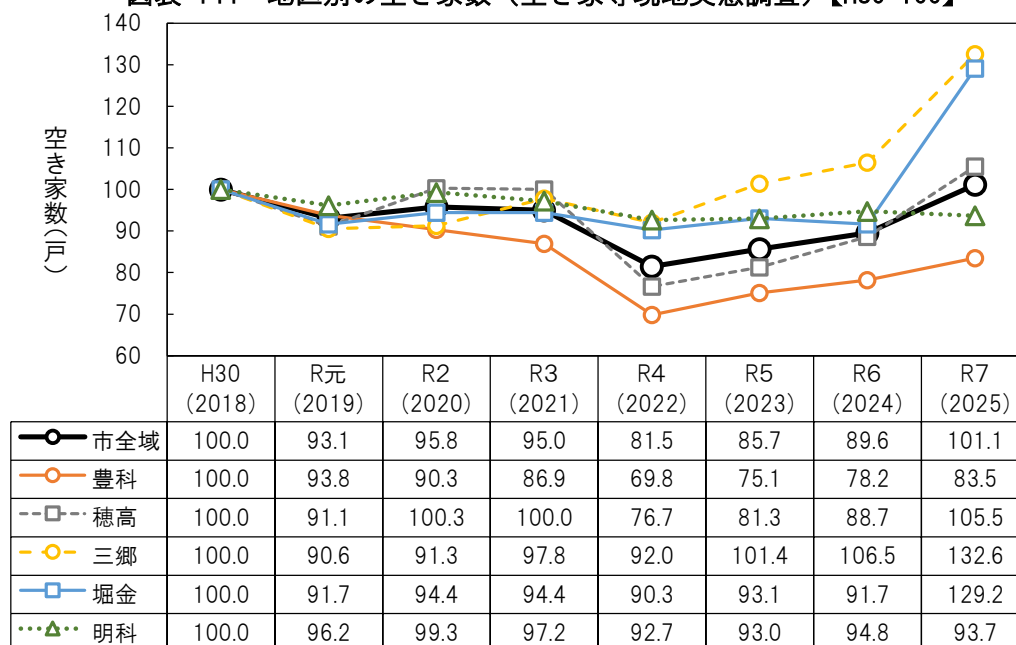
図表143 地区別の空き家数（令和7年度 空き家等現地実態調査）



(資料)安曇野市

(注)空き家等現地実態調査に基づく結果

図表144 地区別の空き家数（空き家等現地実態調査）【H30=100】



(資料)安曇野市

(年度)

(注)空き家等現地実態調査に基づく結果